

清原学長退任

県内就職率向上に力

「一定の基盤づくりできた」



任期満了に伴い理事長兼学長を退任することを明らかにした清原正義氏。浜田市野原町、島根県立天浜田キャンパス

「一定の基盤づくりはできた」。任期満了に伴い8日、退任する意向を明らかにした島根県立大の清原正義理事長兼学長は、学生の県内就職率50%を掲げ、そのための基盤構築を推進。県の発展に資するための公立の大学像を強く求めた。

(一面参照)

2021年度卒業生の浜田、出雲、松江3キャンパス全体の県内就職率は、目標に迫る49.5%で前年比

11.3%増。加えて就任直後の18年に新設した人間文化学部(松江キャンパス)の第1期生が今春卒業し、新たに学生109人中、半数以上の69人を県内の雇用先に送り出したことを「大きな成果」と振り返った。

県内出身の入学者増が卒業時、県内就職につながる。県内高校との連携を重視。県内高校生を対象にブレゼンテーションと面接で可否判断する、独自の推薦

入試制度を取り入れたのもそのためだ。大学と県内自治体、商工会議所とで連携協定を結び、県内就職への持続的な支援も求めた。

清原氏は今後も安定した就職基盤が必要と語る。「単に就職率を上げるだけでなく、島根を担う上でどういう人材を育てるのか考えなければならぬ」といい、長期インターンシップ(就業体験)などで、学生と企業との交流をさらに深めるべきだと訴えた。

「地域貢献日本一」をうたった6年間。「今後も地域貢献を軸に力を尽くし、島根県立大の存在意義を知らしめてほしい」と次代に思いを託した。(宮廻裕樹)

県大キッズシアター



練習を重ねた歌と踊りを披露する学生たち
＝松江市浜乃木7丁目、島根県立大短期大
学部松江キャンパス

【松江】保育士を目指す学生が、乳幼児に創作劇や踊りを披露する「キッズシアター」が17日、松江市浜乃木7丁目の島根県立大松江キャンパスであった。同大短期大学部保育学科1年

の親子連れを招くが新型コロナウイルス感染症防止のため、大学職員と子ども計20人に限定した。

学生42人は入学直後から歌や踊り、クイズなど演目ごとに7グループに分かれてシナリオや振り付けを練ってきた。歌唱班は、動物に仮装してクリスマスソングを口ずさみながら軽快な踊りで会場を盛り上げ、クイズ班はシルエットから野菜や果物の種類を当てる問題を投げかけた。人形劇やオペレッタもあり、松江市浜乃木1丁目の杉千晴さん(5)は「歌と踊りが楽しかった」と喜んだ。

実行委員長の佐藤亜美さん(19)は「子どもたちの反応が良かった」と満足げに振り返った。

(中島諒)